

中学2年 社会 授業用プリント ⑦ 欧米の近代化とアジア侵略（開国と江戸幕府の滅亡まで）

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大国	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

1 この単元の全体像 ― なぜ、江戸幕府はほろんだ？

このページのゴール 17～19世紀の欧米の変化と、日本の開国から江戸幕府がほろぶまでの流れを、ざっと言える

⑥では、江戸幕府が改革をくり返し、外国船が日本に近づくようになったことを学びました。そのころ欧米では、国王の力をおさえて人々が政治に参加する革命と、機械で大量に生産する工業の変化が起こりました。力をつけた欧米の国々はアジアに進出し、日本も開国をせまられました。その混乱の中で、江戸幕府はほろびました。

	1688年	1776年	1789年	18世紀後半	1840年	1853年	1858年	1867年
世界	名誉革命 (2)	独立宣言 (3)	フランス革命 (4)	産業革命が始まる (8)	アヘン戦争 (10)			
日本	江戸時代 (⑤⑥)					ペリーが来る (12)	日米修好通商条約 (13)	大政奉還 (17)

() の数字は、くわしく学ぶページです。



① 市民革命 くわしくは2～5ページ

イギリス・アメリカ・フランスで、国王の政治がどう変わったかを学びます。

② 国民国家と大国 くわしくは6・7ページ

19世紀のヨーロッパの国々と、ロシア・アメリカの広がり学びます。

③ 産業革命 くわしくは8・9ページ

物のつくり方と、工場で働く人々の暮らしの変化を学びます。

④ 欧米のアジア進出 くわしくは10・11ページ

イギリスと清の戦争と、アジアの国々の動きを学びます。

⑤ 開国と幕府の滅亡 くわしくは12～17ページ

ペリーの来航から、開国後の混乱、大政奉還と戊辰戦争までを学びます。

この単元の問い なぜ、江戸幕府はほろんだ？ (答えは18ページ)

この単元の解説記事 (図と例題つき) : [かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad2%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e6%ac%a7%e7%b1%b3%e3%81%ae%e8%bf%91%e4%bb%a3%e5%8c%96%e) <https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad2%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91%e6%ac%a7%e7%b1%b3%e3%81%ae%e8%bf%91%e4%bb%a3%e5%8c%96%e>

1 全体像	2~5 市民革命	6・7 大國	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12~15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

2 イギリスでは、国王と議会の争いからどんな政治が生まれた？

このページのゴール ピューリタン革命と名誉革命のちがいと、権利章典で始まった政治を言える

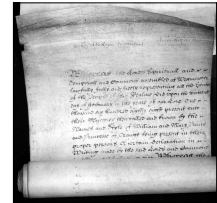
① 市民が力をつけた

④で学んだ世界進出と貿易で経済力をつけた人々（市民）が、政治にも参加したいと考えました。

市民革命（しみんかくめい）＝国王などの専制（せんせい。国王が自分だけの判断で政治を行うこと）に対して、経済力をつけた市民が中心となり、自由や平等、政治への参加を求めて起こした革命

② 国王と議会の争い

- ① 17世紀、国王が議会（ぎかい）を無視して税を取ったり、反対する人をとらえたりした。議会が反発し、内戦になった
- ② 17世紀の中ごろ、クロムウェルが指導する議会側が勝ち、国王を処刑（しょけい）して、国王のいない政治（共和政（きやうわせい））を始めた（**ピューリタン革命**）
- ③ のちに国王の政治にもどったが、国王がふたたび議会を無視した
- ④ 1688年、議会は国王を国外に追い、オランダから新しい国王をむかえた（**名誉革命**。血を流さずに行われた）
- ⑤ 1689年、議会は権利章典を定め、新しい国王に認めさせた



権利章典の原本
（イギリスの議会に残る巻物）
写真：イギリス情報省の写真班・
帝国戦争博物館
（パブリックドメイン）。Wikimedia
Commons より、
白黒にして切り取った

③ 権利章典と新しい政治

権利章典（けんりしょうてん）＝1689年、議会が定め、新しい国王に認めさせた決まり。議会の承認がなければ、国王は法律を止めることも、税を取ることもできない、などを定めた

国王は法に従い、議会を中心に政治を行う**立憲君主制**（りっけんくんしゅせい）と**議会政治**が始まりました（今の議会政治のもと）。

考え方 いくつかのできごとから1つを選ぶ時は、できごとごとに「だれの力が強まり、だれの力がおさえられたか」を言葉にします。（例：学校の決まりを、生徒会の同意がなければ変えられなくなった → 生徒会の力が強まった）

注意 × 名誉革命で、国王が処刑された → ○ 処刑はピューリタン革命。名誉革命は血を流さなかった

合言葉 「ピューリタンは処刑、名誉は無血」

→ まとめ：イギリスでは、議会が国王の力をおさえる政治が始まった

3 アメリカは、なぜイギリスから独立した？

このページのゴール 独立戦争のわけ、独立宣言と合衆国憲法、啓蒙思想の3人を言える

① 北アメリカの植民地

2ページのイギリスは、17世紀から北アメリカの東部に植民地（しょくみんち。本国に支配される地域）をつくり、18世紀には13の植民地がありました。

② 独立までの流れ

- 18世紀の中ごろ、イギリスは財政を補うため、植民地に新しい税をかけた。植民地の人々は、本国の議会に代表を送っていないのにおかしいと反発した（「代表なくして課税なし」）
- 1775年、植民地の人々がイギリスとの独立戦争を始め、ワシントンを総司令官として戦った
- 1776年、独立宣言を発表した
- 1783年、イギリスが独立を認めた
- 1787年、合衆国憲法（がっしゅうこくけんぽう）を定めた
- 1789年、ワシントンが初代の大統領になった（アメリカ合衆国）



アメリカの独立宣言
（1823年に原本を写した物）
絵：W. Stone（著作権切れ）。
Wikimedia Commons より、
白黒にした

独立宣言（どくりつせんげん）＝1776年に発表された宣言。「すべての人は平等につくられ、生命・自由・幸福を追求する権利をもつ」「その権利をうばう政府は、人々が変えることができる」とうたった

③ 革命を支えた考え

啓蒙思想（けいもうしろう）＝17～18世紀のヨーロッパで広まった、人は生まれながらに自由で平等な権利をもつ、という考え

人物	国	説いたこと	影響
<u>ロック</u>	イギリス	人は生命・自由・財産の権利をもち、政府がこれをうばうなら、人々は政府を変えることができる（ <u>抵抗権</u> ）	独立宣言
<u>モンテスキュー</u>	フランス	『法の精神』で、国の権力を立法・行政・司法の3つに分け、たがいにおさえ合わせる <u>三権分立</u> を説いた	合衆国憲法
<u>ルソー</u>	フランス	『社会契約論』で、主権は人民にあると説いた（ <u>人民主権</u> ）	フランス革命（4ページ）

注意 × アメリカの独立戦争は、国王を処刑するために起こった → ○ 本国の税に反発し、独立を求めて起こした

→ まとめ：人は生まれながらに自由で平等、という考えが広まった

4 フランス革命は、なぜ起こった？

このページのゴール 革命前の3つの身分と税、革命の始まり、人権宣言の中身を言える

① 革命の前のフランス

3ページのルソーらの考えや、アメリカの独立が、フランスにも伝わりました。そのころのフランスは、国王が強い権力をもって政治を行っていました（**絶対王政**〈ぜったいおうせい〉）。人々は3つの身分に分けられていました。

第一身分 聖職者（せいしよくしゃ）	第二身分 貴族（きぞく）
税を納めなくてよいなどの特権をもつ	
第三身分 平民（へいみん。農民・商工業者） 人口の大部分をしめ、重い税を負担した	

② 革命が始まるまで

- ① 国の財政が苦しくなり、国王が3つの身分の代表を集めた議会（三部会〈さんぶかい〉）を開いた
- ② 平民の代表は、自分たちで**国民議会**をつくった
- ③ 1789年、パリの民衆が、国王の政治の象徴だったバスチーユ牢獄（ろうごく）をおそい、**フランス革命**が始まった
- ④ 同じ1789年、国民議会が人権宣言を発表した



人権宣言を描いた絵
（フランス。中に宣言の文）
絵：ル・バルビエ
（著作権切れ）。Wikimedia
Commons より、白黒にした

人権宣言（じんけんせんげん）＝1789年に国民議会が発表した宣言。人は生まれながらに自由で平等な権利をもつ、国の主権は国民にある、自由の権利、財産をもつ権利などをうたった。ルソーらの考えの影響を受け、今の基本的人権のもとになった

注意 × 革命前のフランスでは、すべての身分の人が同じように税を納めていた → ○ 聖職者と貴族は税を納めなくてよいなどの特権をもち、平民が重い税を負担した

合言葉 「特権の2つの身分、重い税の平民」

→ まとめ：自由と平等、国民主権の考えが宣言された

5 フランス革命の考えは、どのようにヨーロッパに広がった？

このページのゴール 周りの国が軍を送ったわけ、ナポレオンがしたこと、3つの市民革命の共通点を言える

① 革命の広がりとなポレオン

4ページで革命が始まったフランスに、周りの国々が近づいてきました。

- ① 革命が自分の国に広がり、国王の政治がたおされることをおそれた周りの国々が、フランスに軍を送った
- ② 1792年、フランスは王政を廃止して共和政を始めた
- ③ その翌年、国王を処刑した。国民は、革命を守るために兵士として戦った
- ④ 革命後の混乱の中で、軍人のナポレオンが勢力をのばした
- ⑤ 1804年、ナポレオンが皇帝（こうてい）になった。同じ年、ナポレオン法典を定めた
- ⑥ ナポレオンはヨーロッパの大部分を支配したが、ロシアへの遠征（えんせい）に失敗し、1815年に完全に敗れた

ナポレオン法典=1804年に定められた民法。法の前の平等・個人の自由・財産をもつ権利などを定めた

ナポレオンの支配を通じて、革命の自由と平等の考えがヨーロッパ各地に広まりました。支配された国々では、外国の支配に反発して、1つの国民としてまとまろうとする意識が高まりました（6ページへ）。

② 3つの市民革命のくらべ

国	年	できごと	始まった政治・定めたもの
イギリス	1688～1689年	名誉革命・権利章典	立憲君主制と議会政治
アメリカ	1775～1783年	独立戦争・独立宣言（1776年）	独立した共和政の国・合衆国憲法（1787年）
フランス	1789年～	フランス革命・人権宣言	王政をたおして共和政

どの革命も、国王の専制や本国の支配に反対し、人々の自由と権利、政治への参加を求めた点が共通しています。

注意 × ナポレオンは、フランス革命で国王の政治を守るために戦った → ○ ナポレオンは、革命後の混乱の中で勢力をのばし、皇帝になった

→ まとめ：市民革命で、欧米では国民が政治に参加する近代の国づくりが進んだ

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大国	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

6 19世紀のヨーロッパで、国はどのように変わった？

このページのゴール 国民意識の意味と、イギリス・フランス・ドイツ・イタリアで進んだことを言える

① 国民意識の高まり

5ページのナポレオンの支配への反発から、19世紀のヨーロッパでは、国のまとまりを考える動きが広がりました。

国民意識＝同じ言葉や歴史・文化をもつ人々が、1つの国民としてまとまり、自分たちの国をつくろう、国の政治に参加しようとする意識。このようにして、国民がまとまってつくる国を**国民国家**という

② 4つの国で進んだこと

国	19世紀に進んだこと	年
イギリス	議会政治が発展し、選挙権がしだいに労働者などにも広げられた	19世紀
フランス	ナポレオンのあと国王の政治にもどったが、革命がくり返された。財産に関係なく成人の男子全員が選挙権をもつ 男子普通選挙 （だんしふつうせんきょ）が、世界で初めて実現した	1848年
ドイツ	多くの小さな国に分かれていたが、プロイセン王国の首相 ビスマルク の指導で統一された	1871年 ドイツ帝国
イタリア	いくつかの国に分かれていたが、統一された	1861年 イタリア王国

③ ドイツの統一

- ① ドイツは、多くの小さな国に分かれていた
- ② プロイセン王国の首相ビスマルクが、「鉄（兵器）と血（兵士）によって問題を解決する」と説いて軍備を強めた（「**鉄血宰相**」〈てつけつさいしょう〉とよばれた）
- ③ 戦争に勝ち、1871年にドイツ帝国をつくった

考え方 いくつかの国の説明から1つの国を選ぶ時は、その国に当てはまる語（人物・年・できごと）を手がかりにします。（例：「江戸時代に鎖国をして、長崎の出島でオランダと貿易した」→ 日本）。ロシアは7ページ、イギリスの万国博覧会は8ページで学びます。

注意 × ドイツは、19世紀の初めから1つの国だった → ○ 多くの小さな国に分かれていて、1871年にドイツ帝国として統一された

合言葉 「鉄と血でドイツ統一」

→ まとめ：国民がまとまった国は、工業と軍事の力を強めていった

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大国	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

7 ロシアとアメリカは、どのように大国になった？

このページのゴール ロシアの南下政策、アメリカの西部開拓と南北戦争、リンカンがしたことを言える

① ロシアの拡大

6ページの国々のほかに、ヨーロッパの東と大西洋の向こうで、2つの大国が育ちました。ロシアは、皇帝が強い権力をもつ国です。シベリアを通して太平洋岸まで領土を広げ、日本の北方にも船を送りました（⑥で学んだラクスマン）。

南下政策=冬でもこおらない港（不凍港〈ふとうこう〉）を求めて、黒海や東アジアなど南の方へ勢力を広げようとした政策。イギリスなどと対立した

② アメリカの拡大と南北戦争

アメリカは、独立のあと西へ領土を広げました（西部開拓）。もともと住んでいた先住民の土地をうばい、先住民を追いやりながら、19世紀の半ばに太平洋岸に達しました。やがて、北部と南部が対立しました。

	北部	南部
産業	商工業がさかん	綿花などの大農園
奴隷制	反対	アフリカから連れてこられた黒人の奴隷（どれい）を働かせ、続けたい
貿易	外国の工業製品から国内の産業を守る <u>保護貿易</u> を求めた	綿花をイギリスに売るため、 <u>自由貿易</u> を求めた

- 1861年、南北戦争が始まった
- 1863年、北部のリンカン大統領が奴隷解放宣言を出した。同じ年の演説で、「人民の、人民による、人民のための政治」を訴えた
- 1865年、北部が勝ち、アメリカは1つの国のまとまりを保った
- そののち工業が急速に発展し、大国になった。奴隷は解放されたが、黒人への差別は長く残った

保護貿易=外国の工業製品が国内に入るのをおさえて、国内の産業を守る貿易。**自由貿易**=制限をつけずに、自由に売り買いする貿易

北部の工場は、イギリスの安い工業製品が入ると売れ行きが落ちるので、保護貿易を求めました。南部は、綿花をイギリスに売りたいので、自由貿易を求めました。

注意 × 南北戦争では、奴隷制を続けたい北部が勝った → ○ 奴隷制を続けたかったのは南部。北部が勝ち、奴隷は解放された

→ まとめ：ロシアとアメリカも力をつけ、のちにアジアや太平洋に進出した

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大国	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

8 産業革命で、物のつくり方はどう変わった？

このページのゴール 産業革命がイギリスで始まったわけと、綿織物・蒸気機関・交通の変化を言える

① 綿織物から工場へ

5・6ページの国々の力のもとになった、もう1つの大きな変化が、産業革命です。

- 18世紀のイギリスは、インドから綿織物を輸入していた（軽くて丈夫で、人気があった）
- 綿織物を自分の国で安くつくろうと、糸をつむぐ機械や布を織る機械が次々に発明・改良された
- 18世紀後半、ワットが蒸気機関を改良し、石炭を燃やして生まれる力で機械を動かせるようになった
- 工場で、機械を使って品物を大量に生産するようになった
- 19世紀、蒸気機関を使った蒸気機関車（鉄道）や蒸気船が走り、人や物を速く大量に運べるようになった
- イギリスは安い工業製品を世界中に輸出し、「世界の工場」とよばれた。インドにも、機械でつくった綿織物を輸出するようになった



ワット式の蒸気機関
(1832年にイギリスでつくられた物)
写真：Nicolás Pérez (CC BY-SA 3.0)。
Wikimedia Commons より、白黒にした

産業革命＝機械の発明と工場での大量生産による、産業と社会の大きな変化。18世紀後半にイギリスで始まった

蒸気機関＝石炭を燃やして生まれる力で、工場の機械や乗り物を動かす装置。ワットが改良した

② なぜイギリスで最初に始まった？

石炭と鉄が豊富にとれたこと、貿易などで富をたくわえた人々がいたこと、市民革命で人々が自由に経済活動ができるようになっていたこと、植民地から原料を手に入れ、製品を売ることができたこと、が重なりました。

1851年には、イギリスのロンドンで世界で初めての万国博覧会（ばんこくはくらんかい）が開かれ、各国の工業製品が並びました。産業革命は、19世紀に、フランス・ドイツ・アメリカなどにも広がりました。

注意 × 蒸気機関は、風の力で機械を動かす装置だ → ○ 石炭を燃やして生まれる力で機械を動かす

合言葉 「石炭と蒸気で工場が動く」

→ まとめ：欧米の国々は、産業革命で工業の力をつけた

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大団	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

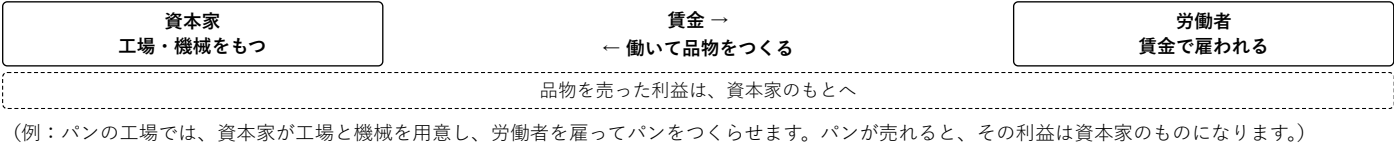
9 工場で働く人々には、どんな問題が起こった？

このページのゴール 資本主義のしくみと、労働者の問題、労働組合と社会主義を言える

① 資本主義のしくみ

8ページの工場で、多くの人が雇われて働くようになりました。

資本主義=資本家（工場や機械などをもつ人）が、労働者を賃金（ちんぎん）で雇って品物をつくらせ、利益を求めて自由に生産・販売する経済のしくみ。産業革命で広まった



② 労働者の問題と、解決をめざす動き

起こった問題	解決をめざす動き
低い賃金で、1日に長い時間働かされた	<u>労働組合</u> をつくり、賃金を上げることや働く時間を短くすることを求めた。選挙権を求める運動も起こした
機械を使う仕事は力のいらない作業が多く、子どもや女性も、安い賃金で長い時間働かされた	子どもが働くことを制限する法律がつくられた
都市に人が集まり、せまく不衛生な住宅が多く、工場の煙などで環境も悪くなった。景気が悪くなると、仕事を失う人も出た。資本家と労働者の貧富の差が広がった	貧富の差をなくす <u>社会主義</u> の考えが生まれた

社会主義=貧富の差をなくすため、土地や工場などを社会全体のものにして、平等な社会をつくろうとする考え。ドイツのマルクスが説いた

くらべること	資本主義	社会主義
工場や土地	資本家をもつ	社会全体のものにする
めざすもの	利益を求めて、自由に生産・販売する	貧富の差をなくし、平等な社会をつくる

注意 × 社会主義は、資本家が利益を求めて自由に生産することをめざす考えだ → ○ それは資本主義。社会主義は、土地や工場を社会全体のものにして平等な社会をめざす考え

→ まとめ：工業が発展した欧米の国々は、原料と市場を求めて外へ向かった

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大国	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

10 イギリスは、なぜ清と戦争をした？

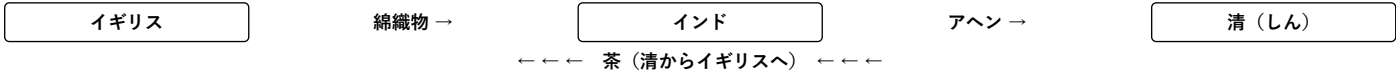
このページのゴール 欧米がアジアに進出したわけ、三角貿易のしくみ、アヘン戦争と南京条約を言える

① 欧米がアジアに進出したわけ

欧米のアジア進出＝産業革命が進んだ欧米の国々が、工業の原料を手に入れる所と、製品を売る市場を求めて、軍事力を背景にアジアやアメリカに進出し、植民地にしたこと

② 三角貿易

茶を買う代金の銀が清に流れ出たので、イギリスは、イギリス・インド・清の3つの地域を結ぶ三角貿易を始めました（19世紀）。



銀の流れ：茶の代金の銀は、イギリスから清へ。アヘンの代金の銀は、清から流れ出て（清 → インド → イギリス）もどる

③ アヘン戦争

- ① イギリスは、清から茶を多く輸入したが、清に売れる品物が少なく、代金として大量の銀が清に流れ出た
- ② そこでイギリスは、インドに綿織物を売り、インドでつくらせた麻薬のアヘンを清にひそかに売った（密輸）
- ③ 清ではアヘンを吸う人がふえて社会が乱れ、銀が国外に流れ出た
- ④ 清がアヘンの輸入をきびしく取りしまった
- ⑤ 1840年、イギリスが軍艦を送り、戦争になった（アヘン戦争）。新しい武器をもつイギリスが勝った
- ⑥ 1842年、南京条約（なんきんじょうやく）を結んだ。清は香港をイギリスにゆずり、上海など5つの港を開き、賠償金（ばいしょうきん）をはらった
- ⑦ 翌年の取り決めで、清は領事裁判権を認め、関税を決める権利を失った（この2つは13ページで学ぶ）

考え方 矢印の図は、矢印ごとに「だれからだれへ、何が動くか」を言葉にして、同じ品物が入る所を見つけます。（例：農家 → バン屋「小麦」）

注意 × イギリスがアヘンを取りしまり、アヘン戦争が起こった → ○ 取りしまったのは清。密輸したのがイギリス

合言葉 「茶の銀を、アヘンで取りもどす」

→ まとめ：アジアの大国の清も欧米に敗れ、不平等な条約を結ばされた

11 アジアの国々は、欧米の進出にどう立ち向かった？

このページのゴール 太平天国の乱とインド大反乱、東南アジアの植民地、日本への影響を言える

① 植民地になったアジア

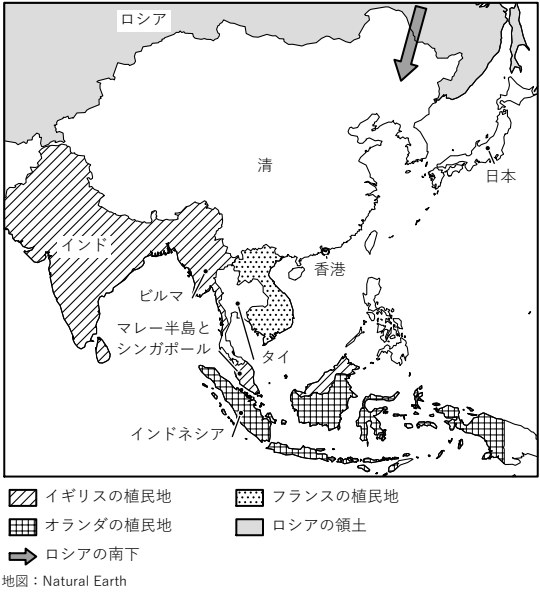
10ページの清の敗北のあと、欧米の国々は、アジアの多くの地域を植民地にしました。ロシアも、冬でもこおらない港を求めて南へ勢力を広げました（7ページ）。

植民地＝ほかの国に支配され、政治や経済の自由をうばわれた地域

地図で、イギリス・フランス・オランダが支配した地域と、ロシアの動きを確認しましょう。タイは独立を保ちました。

② 日本への影響

アヘン戦争で清が敗れたことは日本にも伝わり、幕府は1842年に異国船打払令（いこくせんうちはいれい）をやめました（⑥で学んだ）。欧米の国々は、日本にも開国を求めました（12ページ）。



③ 清・インド・東南アジアの動き

地域	何が起こった	年
清	賠償金などのために税が重くなり、 洪秀全 （こうしゅうぜん）を中心に農民などが 太平天国 （たいへいてんごく）の乱を起こした。一時は南京を都にした	1851～1864年
インド	イギリスの 東インド会社 が支配を広げ、安い綿織物が入ってインドの手工業がおとろえた。会社に雇われていたインド人の兵士の反乱をきっかけに、人々が各地で立ち上がった（ インド大反乱 ）。イギリスはこれをおさえ、 ムガル帝国 をほろぼして、インドを直接支配した	1857年（反乱） 1858年（ほろぶ）
東南アジア	オランダがインドネシアを、フランスがインドシナ半島の東部（今のベトナムなど）を、イギリスがマレー半島・シンガポール・ビルマ（今のミャンマー）を植民地にした	19世紀

注意 ×インド大反乱で、インドは独立した → ○イギリスはこれをおさえ、インドを直接支配した

→ まとめ：欧米の国々は、アジアの多くの地域を植民地にし、日本にも近づいた

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大国	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

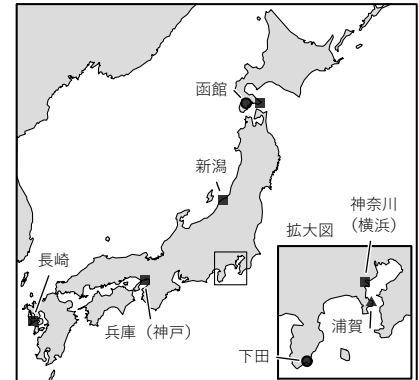
12 日本は、なぜ開国した？

このページのゴール アメリカが港を求めたわけと、ペリーの来航から日米和親条約までを言える

① ペリーの来航

11ページの欧米のアジア進出と、⑥で学んだ外国船の接近が背景にあります。

- ① アメリカは、北太平洋で捕鯨（ほげい）をする船や、清と貿易をする船のために、燃料・食料・水を補給できる港を、日本に求めた
- ② 1853年、アメリカの使節ペリーが、4隻の軍艦（黒船）を率いて浦賀（うらが。神奈川県）に来て、開国を求める大統領の手紙（国書）を幕府にわたした
- ③ 幕府は返事を翌年にのぼし、朝廷に報告し、大名にも意見を求めた。それまで外交は幕府だけで決めていたので、朝廷や大名が政治に意見を言うきっかけになった
- ④ 1854年、ペリーがふたたび来航した
- ⑤ 同じ1854年、幕府は日米和親条約（にちべいわしんじょうやく）を結んだ



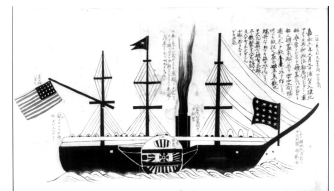
- 日米和親条約で開いた港（1854年）
- 日米修好通商条約で開いた港（1858年）
- ▲ ペリーが来航した所（1853年）

地図：Natural Earth

② 日米和親条約と開国

日米和親条約＝1854年に結ばれた条約。下田（しもだ。静岡県）と函館（はこだて。北海道）の2つの港を開き、アメリカの船に燃料・食料・水などをあたえる。下田に領事を置く

⑤で学んだ鎖国の体制が終わり、日本は開国しました。幕府は、イギリス・ロシア・オランダとも同じような条約を結びました。



ペリーの黒船（サスケハナ号）
（1853年に日本の人が描いた絵）
絵：作者不明・米国議会図書館（著作権切れ）。
Wikimedia Commons より、白黒にした

注意 × 日米和親条約で、自由な貿易が始まった → ○ 貿易は1858年の日米修好通商条約から（13ページ）

合言葉 「1853（いやでござんす）ペリー来航」

→ まとめ：欧米の力におされて、日本は開国した

13 日米修好通商条約は、どこが不平等だった？

このページのゴール 条約を結んだいきさつと、5つの港、領事裁判権と関税自主権のしくみを言える

① 条約を結んだいきさつ

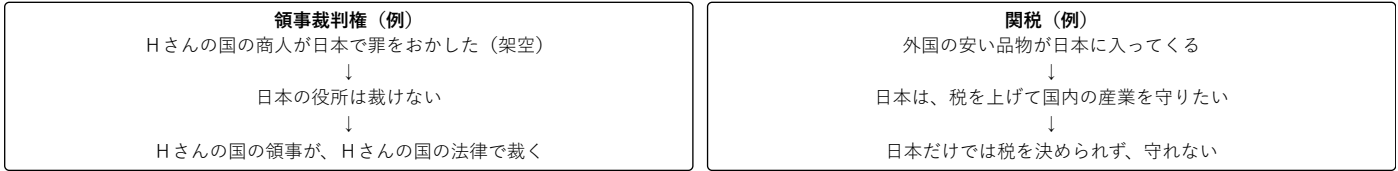
12ページの開国のあと、アメリカの総領事（そうりょうじ）ハリスは、貿易を始めることを強く求めました。清がイギリス・フランスに敗れたことを伝え、日本にも危険がせまっていると説きました。幕府は朝廷の許可を得て条約を結ぼうとしましたが、朝廷は許可しませんでした。1858年、大老（たいろう）の井伊直弼（いinaおすけ）は、朝廷の許可を得ないまま、日米修好通商条約（にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく）を結びました。

	日米和親条約	日米修好通商条約
年	1854年	1858年
開いた港	下田・函館	函館・神奈川（かながわ。横浜）・長崎・新潟・兵庫（ひょうご。神戸）の5つ
中身	アメリカの船に燃料・食料・水などをあたえる	自由な貿易を認める。日本にとって不平等な内容があった

② 不平等な2つのしくみ

領事裁判権（りょうじさいばんけん。治外法権〈ちがいほうけん〉）＝日本で罪をおかした外国人を、日本の法律ではなく、その国の領事（外国で自国の人を守る役人）が、その国の法律で裁く権利を認めたこと

関税自主権（かんぜいじしゅけん）＝輸入品にかかる税（関税）の割合を、自分の国で決める権利。日本には無く、相手の国と相談して決めることになった



このような条約を不平等条約といい、その改正は明治時代の大きな課題になります（⑨）。

考え方 文の空らんを記述で書く時は、空らんの後ろの「きっかけ→結果」の文から、何が人々の反発を生んだのかを考え、指定された語を入れて1文にします。（例：「先生が〔 〕ことで不満が高まった」→相談せずに席がえを決めた）

注意 × 領事裁判権は、日本の役所が外国人を裁く権利だ → ○ その国の領事が、その国の法律で裁く権利

→ まとめ：幕府は朝廷の許可なく不平等な条約を結び、批判を受けた

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大國	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

14 貿易が始まると、人々の暮らしはどうなった？

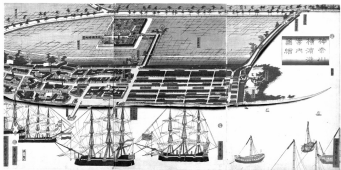
このページのゴール おもな輸出品と輸入品、物価が上がったわけ、金流れ出たわけを言える

① 貿易の始まり

13ページの条約で、1859年、横浜・長崎・函館で外国との貿易が始まりました。

	おもな品物など
輸出	生糸（きいと。いちばん多い）・茶など
輸入	毛織物（けおりもの）・綿織物・武器など
港と相手	いちばん多い港は横浜（よこはま）、相手の国はイギリス

機械でつくられた安い綿織物が輸入され、国内の綿織物づくりが打撃を受けました。



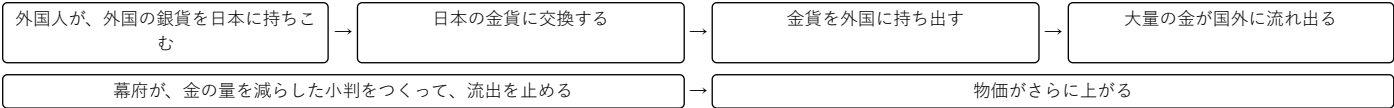
開港した横浜の港
（1860年の錦絵。外国の船が並ぶ）
絵：歌川貞秀（CC0）。Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

② 物価の上昇

- ① 生糸が大量に輸出され、国内で品不足になって、値段が上がった
- ② 米などほかの品物の値段も上がった（物価の上昇）
- ③ 人々の生活が苦しくなった

③ 金の流出

	金と銀を交換する割合
日本	金1に対して、銀およそ5
外国	金1に対して、銀およそ15



注意 × 開国後は輸入品がふえたので、日本の物価は下がった → ○ 生糸の輸出で品不足になり、物価は上がった

合言葉 「生糸が出て、物価が上がる」

→ まとめ：物価が上がり、生活に苦しむ人々の不満が高まった

1 全体像	2～5 市民革命	6・7 大國	8・9 産業革命	10・11 アジア進出	12～15 開国	16・17 幕府滅亡	18 まとめ
-------	----------	--------	----------	-------------	----------	------------	--------

15 開国に反対する人々は、どう動いた？

このページのゴール 尊王攘夷の意味と、安政の大獄・桜田門外の変、公武合体を言える

① 尊王攘夷の高まり

13ページの、朝廷の許可を得ない条約と、14ページの暮らしの苦しさが、幕府への批判を強めました。

尊王攘夷（そのんうじょうい）＝天皇を尊ぶ考え（尊王）と、外国の勢力を追い払おうとする考え（攘夷）が結びついたもの。⑥で学んだ国学の影響もあった

「尊王」の「王」は天皇、「攘夷」の「夷」は外国のことで、「攘」は追い払うという意味です。

② 幕府の対応と桜田門外の変

- ① 朝廷の許可を得ないまま結ばれた条約に、反対する声が高まった
- ② 1858～1859年、井伊直弼は、幕府の政策に反対する大名や公家（くげ）を処罰し、長州藩の吉田松陰（よしだしょういん）ら（尊王攘夷を説いた人々）を処刑した（安政の大獄〈あんせいのだいごく〉）
- ③ 1860年、これに反発した水戸藩などの元藩士たちが、江戸城の桜田門の外で井伊直弼を暗殺した（桜田門外の変〈さくらだもんがいのへん〉）
- ④ 幕府の老が殺されたことで、幕府の権威は大きく落ちた
- ⑤ 幕府は、朝廷との結びつきを強めて立て直そうとし、孝明天皇の妹の和宮（かずのみや）を14代將軍の妻にむかえた（公武合体〈こうぶがったい〉）

公武合体＝朝廷（公）と幕府（武）が結びついて、政治を立て直そうとする考え

③ 安政の大獄と桜田門外の変のくらべ

	安政の大獄	桜田門外の変
年	1858～1859年	1860年
だれが	大老の井伊直弼（幕府）	水戸藩などの元藩士たち
何をした	反対する大名や公家を処罰し、吉田松陰らを処刑した	桜田門の外で、井伊直弼を暗殺した

注意 × 桜田門外の変で、幕府の力は強まった → ○ 大老が殺され、幕府の権威は大きく落ちた

合言葉 「尊王で天皇を、攘夷で外国を」

→ まとめ：開国への反発で、幕府の権威は落ちていった

16 攘夷に失敗した薩摩藩と長州藩は、どう動いた？

このページのゴール 攘夷の失敗から薩長同盟までと、世直しとええじゃないかを言える

① 攘夷の失敗

15ページの尊王攘夷の高まりの中で、⑥で学んだ雄藩の薩摩藩（さつまはん）と長州藩（ちょうしゅうはん）は、外国と戦いました。

	薩摩藩	長州藩
外国との戦い	1862年、藩士がイギリス人を殺傷した（ 生麦事件 〈なまむぎじけん〉）。1863年、イギリスの艦隊が鹿児島を砲撃した（ 薩英戦争 〈さつえいせんそう〉）	1863年、下関（しものせき）海峡（関門海峡）を通る外国船を砲撃した。1864年、4か国の艦隊が下関の砲台を攻撃し、占領した
その後	どちらも、欧米の軍事力の強さを知り、外国を追い払うこと（攘夷）は無理だと考えて、イギリスなどから武器や技術を取り入れ、軍備を強めた	
実権	西郷隆盛 （さいごうたかもり）・ 大久保利通 （おおくぼとしみち）	奇兵隊 （きへいたい）をつくった 高杉晋作 （たかすぎしんさく）と、 木戸孝允 （きどたかよし）

② 薩長同盟

薩長同盟（さつちょうどうめい）＝1866年、土佐藩（とさはん）出身の**坂本龍馬**（さかもとりょうま）らの仲立ちで、対立していた薩摩藩と長州藩が結んだ同盟。幕府をたおす運動（**倒幕**〈とうばく〉）の中心になった

③ 人々の動き

	中身
世直し	物価の上昇で生活に苦しむ人々が、世の中を立て直すこと（世直し）を求めて、各地で一揆や打ちこわしを起こした。1866年に特に多かった
ええじゃないか	1867年、「伊勢神宮（いせじんぐう）などのお札が降ってきた」として、人々が「ええじゃないか」と歌いながら町を踊り歩く騒ぎが、近畿・東海地方などに広がった



「ええじゃないか」のおどり（河鍋晩斎の絵。お札がふる）
絵：河鍋晩斎（著作権切れ）。Wikimedia Commons より、白黒にした

注意 × 薩英戦争で、薩摩藩はイギリスを追い払った → ○ 欧米の軍事力の強さを知り、攘夷は無理だと考えた

合言葉 「攘夷に敗れて、薩長手を結ぶ」

→ まとめ：力をつけた雄藩が手を結び、人々も世の中が変わることを求めた

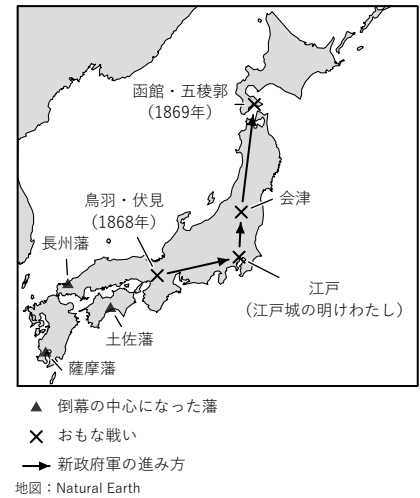
17 江戸幕府は、どのようにしてほろんだ？

このページのゴール 大政奉還・王政復古の号令・戊辰戦争の順と中身を言える

① 大政奉還と王政復古の号令

16ページの薩長同盟で、倒幕の動きが強まりました。

- 1867年、15代将軍の徳川慶喜（とくがわよしのぶ）が、政権を朝廷に返した（大政奉還〈たいせいほうかん〉）。新しい政治でも徳川家を中心でいられると考えていた
- 同じ1867年、西郷隆盛・大久保利通や公家の岩倉具視（いわくらともみ）らが朝廷を動かして王政復古の号令を出し、幕府を廃止して天皇中心の政治にもどすと宣言した
- さらに、慶喜に官職（かんしよく）や領地を返させることを決めた。旧幕府側は強く反発した
- 1868年、京都の鳥羽（とば）・伏見（ふしみ）の戦いから、新政府軍と旧幕府軍の戦いが始まった（戊辰戦争〈ぼしんせんそう〉）
- 新政府軍は江戸に進み、西郷隆盛と旧幕府の勝海舟（かつかいしゅう）の話し合いで江戸城が戦わずに明けわたされた。会津（あいづ）など東北の藩も破った
- 1869年、函館の五稜郭（ごりょうかく）で旧幕府軍が降伏し、新政府が国内を統一した（⑧へ）



② 江戸幕府の滅亡

大政奉還＝1867年、15代将軍の徳川慶喜が、政権を朝廷に返したこと
王政復古の号令＝1867年、幕府を廃止し、天皇を中心とする政治にもどすことを宣言したこと

注意 × 大政奉還で、すぐに戦いが終わった → ○ 大政奉還のあとも、戊辰戦争が1869年まで続いた

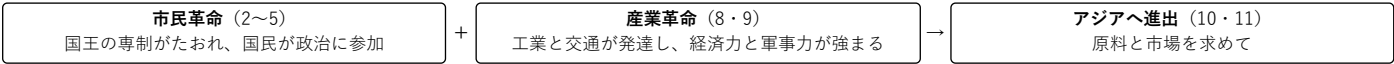
合言葉 「慶喜が返して、王政が復古」

→ まとめ：1603年から続いた江戸幕府は、1867年にほろび、⑧の明治の新しい政府へ

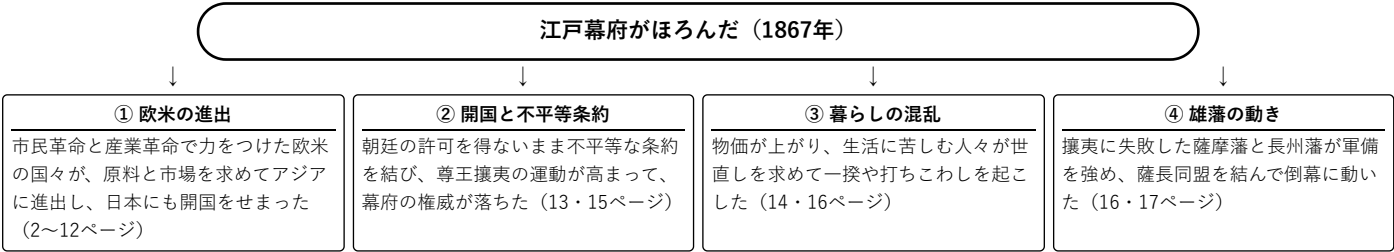
18 なぜ、江戸幕府はほろんだ？ — クラゲチャートでまとめる

このページのゴール 2～17ページをクラゲチャートでつないで、1ページの問いに答えられる

① 欧米が先に発展したわけ



② クラゲチャート



③ 年表

年	世界のできごと	年	日本のできごと
1688年	名誉革命 (イギリス)	1853年	ペリーが浦賀に来る
1776年	アメリカの独立宣言	1854年	日米和親条約
1789年	フランス革命・人権宣言	1858年	日米修好通商条約・安政の大獄 (～1859年)
1804年	ナポレオンが皇帝になる	1860年	桜田門外の変
1840年	アヘン戦争	1863年	薩英戦争・長州藩が外国船を砲撃
1851年	太平天国の乱	1866年	薩長同盟
1857年	インド大反乱	1867年	大政奉還・王政復古の号令
1861年	南北戦争	1868年	戊辰戦争が始まる

④ 問いの答えの例

市民革命と産業革命で力をつけた欧米の国々が、アジアに進出し、日本にも開国をせまりました。幕府が朝廷の許可を得ずに不平等な条約を結ぶと幕府の権威が落ち、貿易で物価が上がって人々の不満も高まりました。そこで薩摩藩と長州藩が手を結んで倒幕に動き、1867年に江戸幕府はほろびました。

確認問題 ① 市民革命・国民国家と大国

答えと解説は23・24ページ（12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 市民革命について答えなさい。【2～5ページ】

- (1) 17世紀の中ごろのイギリスで、議会を無視する国王と議会が争い、クロムウェルの指導する議会側が勝って国王を処刑し、国王のいない政治を始めた革命を何といいますか。 _____
- (2) 名誉革命について正しいものを選びなさい。
ア 植民地の人々が本国の軍と戦い、独立を勝ち取って新しい国をつくった
イ 議会が国王を国外に追い、オランダから新しい国王をむかえた
ウ パリの民衆が牢獄をおそったことから始まり、国王の政治をたおした
エ 軍人が皇帝になり、ヨーロッパの大部分を支配して法典を定めた _____
- (3) 北アメリカの13の植民地の人々が、イギリスとの独立戦争を起こしたのはなぜですか。「税」「代表」の2つの語を使って書きなさい。

- (4) 1776年に発表され、「すべての人は平等につくられ、生命・自由・幸福を追求する権利をもつ」とうたった宣言を何といいますか。 _____
- (5) 『法のスリット』を書き、国の権力を3つに分けて、たがいにおさえ合わせるしくみを説いたフランスの思想家はだれですか。 _____
- (6) 革命前のフランスの身分と税について、正しいものを選びなさい。
ア 聖職者が重い税を負担し、貴族と平民は税を納めなかった
イ 平民は税を納めなくてよく、貴族が国の財政を支えていた
ウ 聖職者と貴族は特権をもって税を納めず、平民が重い税を負担した
エ 税は無く、国王が自分の土地からの収入で国の財政を支えた _____
- (7) 1789年にフランスで起こった動きがきっかけで、周りの国々はフランスに軍を送りました。それはなぜですか。「革命」「国王」の2つの語を使って書きなさい。

- (8) ナポレオンの支配がヨーロッパにもたらしたことからして、正しいものを選びなさい。
ア 各国で国王の力が強まり、革命の前よりも人々が政治に参加できなくなった
イ ヨーロッパの国々が1つの国にまとまり、国と国との境がなくなって争いも終わった
ウ ヨーロッパの国々がもつ植民地が、いっせいに本国から独立して新しい国をつくった
エ 自由と平等の考えが各地に広まり、国民としてまとまる意識が高まった _____

2 国民国家と大国について答えなさい。【6・7ページ】

- (1) 19世紀のヨーロッパで、多くの国に分かれていた地域が、1つの国にまとまっていったのは、人々の間にどんな意識が高まったからですか。「言葉」「国民」の2つの語を使って書きなさい。
- (2) 1861年に始まり、1865年に北部が勝って終わった、アメリカの国内の戦争を何といいますか。 _____
- (3) (2)の戦争中に奴隷解放宣言を出し、「人民の、人民による、人民のための政治」を訴えた大統領はだれですか。 _____
- (4) アメリカの国内で対立していた北部と南部のちがいとして、正しいものを選びなさい。
ア 北部と南部は、どちらも商工業がさかんで奴隷制に反対していた
イ 北部と南部は、どちらも綿花の大農園で奴隷を働かせていた
ウ 北部＝綿花の大農園で奴隷を働かせた／南部＝商工業がさかんで奴隷制に反対
エ 北部＝商工業がさかんで奴隷制に反対／南部＝綿花の大農園で奴隷を働かせた _____

確認問題② 産業革命・アジア進出・開国

答えと解説は23・24ページ（12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

3 産業革命について答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 18世紀後半にワットが改良し、石炭を燃やして生まれる力で、工場の機械や乗り物を動かした装置を何といいますか。 _____
- (2) 産業革命で交通がどう変わったかについて、正しいものを選びなさい。
ア 馬車が交通の中心になり、鉄道は時間がかかるので使われなくなった
イ 風の力で進む帆船が交通の中心になり、船の速さは変わらなかった
ウ 鉄道と蒸気船が使われ、人や物を速く大量に運べるようになった
エ 人や物が国の外に出ることが禁止され、国内の交通だけが発達した _____
- (3) 工場で働く人々が、賃金を上げることや働く時間を短くすることを求めるためにつくった団体を何といいますか。 _____
- (4) 貧富の差をなくすため、土地や工場などを社会全体のものにして、平等な社会をつくらうとする考えで、ドイツのマルクスが説いたものを何といいますか。 _____
- (5) 産業革命のころのイギリスの工場では、子どもも長い時間働かされました。工場で子どもが雇われたのはなぜですか。「機械」「賃金」の2つの語を使って書きなさい。

4 欧米のアジア進出について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 産業革命のあと、欧米の国々がアジアやアフリカに求めた物として、正しいものを選びなさい。
ア 工業の製品を買い入れる所と、原料を売りこむ市場
イ 工業の原料を手に入れる所と、製品を売る市場
ウ 奴隷として働かせるための、アフリカやアジアの人々
エ ヨーロッパの学問を教えるための、新しい学校と先生 _____
- (2) 1842年に結ばれ、清が香港をイギリスにゆずり、上海など5つの港を開くことを認めた条約を何といいますか。 _____
- (3) アヘン戦争のあと、重い税に苦しむ清の農民などが、洪秀全を中心に起こし、一時は南京を都にして国をつくった反乱を何といいますか。 _____
- (4) 1857年、東インド会社に雇われていたインド人の兵士の反乱から各地に広がり、これをおさえたイギリスがムガル帝国をほぼぼして、インドを直接支配するきっかけになった反乱を何といいますか。 _____

5 開国について答えなさい。【12～14ページ】

- (1) アメリカが日本に開国を求めた目的として、正しいものを選びなさい。
ア 日本を植民地にして、日本でもとれる米を大量に国へ運びたかった
イ キリスト教を広めるための学校を、日本の各地に建てたかった
ウ 捕鯨や清との貿易の船が、燃料・食料・水を補給できる港がほしかった
エ 日本の金と銀を、外国の品物と交換して安く手に入れたかった _____
- (2) 日米和親条約で開かれた港の組み合わせとして、正しいものを選びなさい。
ア 浦賀と長崎 イ 下田と函館 ウ 長崎と横浜 エ 新潟と兵庫 _____
- (3) 日本で罪をおかした外国人を、日本の法律ではなく、その国の領事とその国の法律で裁く権利を何といいますか。 _____
- (4) 日米修好通商条約で、日本に関税自主権が無かったことは、日本にとってどんな点で不利でしたか。「輸入品」「税」の2つの語を使って書きなさい。

確認問題③ 幕府の滅亡・年表とまとめ

答えと解説は23・24ページ（12枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

5 開国について答えなさい（つづき）。【14ページ】

- (5) 開国後の経済の変化として、正しいものを選びなさい。
- ア 生糸や茶の輸出がふえ、国内で品物が不足して物価が上がった
 - イ 外国の品物はほとんど入らず、国内の綿織物づくりがさかんになった
 - ウ 貿易は少しだけで、物の値段も人々の暮らしもほとんど変わらなかった
 - エ 外国の金貨が大量に持ちこまれ、日本の国内に金があふれた
- (6) 開国後、日本から大量の金が国外に流れ出たのはなぜですか。「金」「銀」の2つの語を使って書きなさい。

6 幕府の滅亡について答えなさい。【15～17ページ】

- (1) 天皇を尊ぶ考えと、外国の勢力を追い払おうとする考えが結びついたもので、開国のあと運動が高まったものを何といいますか。_____
- (2) 薩摩藩と長州藩が、外国を追い払うことをやめ、欧米の武器や技術を取り入れるようになったのはなぜですか。「戦い」「軍事力」の2つの語を使って書きなさい。

- (3) 1866年、土佐藩出身の坂本龍馬らの仲立ちで、対立していた2つの藩が結び、幕府をたおす運動の中心になった同盟を何といいますか。_____
- (4) 1867年、「お札が降ってきた」として、人々が歌い踊りながら町を練り歩いた、近畿・東海地方などに広がった騒ぎを何といいますか。_____
- (5) 王政復古の大本営について、正しいものを選びなさい。
- ア 15代将軍の徳川慶喜が、政権を朝廷に返した
 - イ 日本に近づく外国船を、ためらわずに打ち払うように命じた
 - ウ 朝廷と幕府が結びついて、政治を立て直そうとした
 - エ 幕府を廃止し、天皇を中心とする政治にもどすことを宣言した
- (6) 1868年の京都の鳥羽・伏見の戦いから始まり、1869年の函館の五稜郭の戦いで終わった、新政府軍と旧幕府軍の戦いを何といいますか。_____

7 年表とまとめについて答えなさい。【1・18ページ】

- (1) 次のできごとを、古い順に並べなさい。_____
- ア 薩英戦争が起こる
 - イ 日米和親条約が結ばれる
 - ウ 大政奉還が行われる
 - エ 桜田門外の変が起こる

なぜ江戸幕府はほろんだ？－クラゲチャートの足の一部

- ①欧米の国々は、市民革命と（ A ）で力をつけ、原料と市場を求めてアジアに進出した
- ③物価が上がり、生活に苦しむ人々が（ B ）を求めて一揆や打ちこわしを起こした

- (2) 上の文の A に入る語を書きなさい。_____
- (3) 上の文の B に入る語を書きなさい。_____
- (4) 江戸幕府がほろんだわけを、開国のあとの人々の暮らしと、薩摩藩と長州藩の動きの面から、「物価」「同盟」の2つの語を使って書きなさい。

- (5) 欧米が世界に先がけて発展したわけとして、正しいものを選びなさい。
- ア アジアの国々から進んだ技術を学び、それを取り入れて工業が発達したから
 - イ 市民革命で国民が政治に参加し、機械と工場による大量生産で工業が発達したから
 - ウ 国王の専制が強まり、国の力が1つにまとまって、外国との戦いに強くなったから
 - エ 鎖国を続けて外国との争いをさけ、国内の農業と産業に力を入れたから

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

市民革命（2～5ページ）

市民革命・ピューリタン革命（クロムウェル・共和政）・名誉革命（1688年）・権利章典（1689年）・立憲君主制と議会政治。13の植民地・独立戦争（1775年・ワシントン）・独立宣言（1776年）・合衆国憲法（1787年）。啓蒙思想＝ロック（抵抗権）・モンテスキュー（三権分立）・ルソー（人民主権）。絶対王政・3つの身分・フランス革命（1789年）・人権宣言（1789年）・ナポレオン（1804年に皇帝）・ナポレオン法典。

国民国家と大国（6・7ページ）

国民意識・国民国家・男子普通選挙（1848年 フランス）・ビスマルクとドイツ帝国（1871年）・イタリア王国（1861年）。南下政策（不凍港）・西部開拓・南北戦争（1861年）・リンカン・奴隷解放宣言（1863年）。

産業革命と資本主義（8・9ページ）

産業革命（18世紀後半 イギリス）・ワットの蒸気機関・蒸気機関車と蒸気船・世界の工場・万国博覧会（1851年）。資本主義・資本家と労働者・労働組合・社会主義（マルクス）。

年表（18ページ）

年	世界のできごと	年	日本のできごと
1688年	名誉革命（イギリス）	1853年	ペリーが浦賀に来る
1776年	アメリカの独立宣言	1854年	日米和親条約
1789年	フランス革命・人権宣言	1858年	日米修好通商条約・安政の大獄
1840年	アヘン戦争	1860年	桜田門外の変
1851年	太平天国の乱	1866年	薩長同盟
1861年	南北戦争	1867年	大政奉還・王政復古の号令

合言葉

ピューリタンは処刑、名誉は無血／特権の2つの身分、重い税の平民／鉄と血でドイツ統一／石炭と蒸気で工場が動く／茶の銀を、アヘンで取りもどす／1853（いやでござんす）ペリー来航／生糸が出て、物価が上がる／尊王で天皇を、攘夷で外国を／攘夷に敗れて、薩長手を結ぶ／慶喜が返して、王政が復古

アジア進出（10・11ページ）

三角貿易（綿織物・アヘン・茶と銀）・アヘン戦争（1840年）・南京条約（1842年・香港）・太平天国（1851年）・インド大反乱（1857年）・植民地（インドネシア・インドシナ・マレー半島）。

開国と不平等条約（12～14ページ）

ペリー（1853年・浦賀）・日米和親条約（1854年・下田と函館）・開国。ハリス・井伊直弼・日米修好通商条約（1858年・5つの港）・領事裁判権・関税自主権・不平等条約。生糸と茶の輸出・物価の上昇・金の流出。

幕府の滅亡（15～17ページ）

尊王攘夷・安政の大獄・桜田門外の変（1860年）・公武合体。生麦事件・薩英戦争（1863年）・下関の砲撃（1863・1864年）・薩長同盟（1866年・坂本龍馬）・世直し・ええじゃないか（1867年）。徳川慶喜・大政奉還（1867年）・王政復古の号令（1867年）・戊辰戦争（1868～1869年・鳥羽・伏見から五稜郭）。

確認問題の答えと解説

1【2～5ページ】

- (1) **ピューリタン革命** (2) **イ**
 - (3) (例) **イギリス本国が、植民地の代表のいない議会で、植民地に新しい税をかけたから。**
 - (4) **独立宣言** (アメリカ独立宣言でも正解)
 - (5) **モンテスキュー** (6) **ウ**
 - (7) (例) **革命が自分の国に広がり、国王の政治がたおされることをおそれたから。**
 - (8) **エ**
- 議会側が国王を処刑して国王のいない政治を始めたのがピューリタン革命です。名誉革命は、血を流さずに国王を国外に追った革命です (アは独立戦争、ウはフランス革命、エはナポレオンのことです)。(3) の採点のめやす：「税」「代表」の両方を使って書けていれば正解。(7) の採点のめやす：「革命」「国王」の両方を使って書けていれば正解。『法 の精神』で三権分立を説いたのはモンテスキューです。革命前のフランスでは、聖職者と貴族は特権をもち、平民が重い税を負担しました。ナポレオンの支配を通じて、自由と平等の考えが広まり、国民としてまとまる意識が高まりました。【2～5】

2【6・7ページ】

- (1) (例) **同じ言葉や歴史・文化をもつ人々が、1つの国民としてまとまり、自分たちの国をつくろうとする意識が高まったから。**
 - (2) **南北戦争** (3) **リンカン**
 - (4) **エ**
- 国民意識が高まる中で、ドイツやイタリアは統一されました。採点のめやす：「言葉」「国民」の両方を使って書けていれば正解。1861年から1865年まで続いたのが南北戦争で、1863年に奴隷解放宣言を出したのがリンカンです。北部は商工業がさかんで奴隷制に反対し、南部は綿花の大農園で奴隷を働かせていました。【6・7】

3【8・9ページ】

- (1) **蒸気機関** (2) **ウ**
 - (3) **労働組合** (4) **社会主義**
 - (5) (例) **機械を使う仕事は力のいらない作業が多く、子どもを安い賃金で雇えたから。**
- ワットが改良した蒸気機関は、石炭を燃やして生まれる力で機械を動かしました。鉄道と蒸気船で、人や物を速く大量に運べるようになりました。賃金を上げることを求めたのが労働組合、土地や工場を社会全体のものにしようとしたのが社会主義です。(5) の採点のめやす：「機械」「賃金」の両方を使って書けていれば正解。【8・9】

4【10・11ページ】

- (1) **イ** (2) **南京条約**
 - (3) **太平天国** (太平天国の乱でも正解)
 - (4) **インド大反乱**
- 産業革命が進んだ欧米の国々は、工業の原料を手に入れる所と、製品を売る市場を求めて、アジアに進出しました。アヘン戦争に勝ったイギリスと結んだのが南京条約で、清は香港をゆずり、上海など5つの港を開きました。洪秀全を中心に起こったのが太平天国の乱です。インド大反乱をおさえたイギリスは、ムガル帝国をほろぼしました。【10・11】

5 【12～14ページ】

- (1) ウ (2) イ
(3) 領事裁判権 (治外法権でも正解)
(4) (例) 輸入品にかかる税の割合を日本が自由に決められず、安い外国の品物がふえても、税を上げて国内の産業を守れなかった。
(5) ア
(6) (例) 金と銀を交換する割合が日本と外国でちがひ、外国人が外国の銀を日本に持ちこんで日本の金にかえ、持ち出したから。

アメリカは、捕鯨や清と貿易をする船が燃料・食料・水を補給できる港を求め、1854年の日米和親条約で下田と函館が開かれました。日本で罪をおかした外国人を、その国の領事が裁く権利が領事裁判権です。(4) の採点のめやす：「輸入品」「税」の両方を使って書けていれば正解。1859年に貿易が始まると、生糸などの輸出で品不足になり、物価が上がりました。(6) の採点のめやす：「金」「銀」の両方を使って書けていれば正解。【12・13・14】

6 【15～17ページ】

- (1) 尊王攘夷 (尊王攘夷運動でも正解)
(2) (例) 薩英戦争や下関での外国の艦隊との戦いで、欧米の軍事力の強さを知り、外国を追い払うことは無理だと考えたから。
(3) 薩長同盟 (4) ええじゃないか
(5) エ (6) 戊辰戦争

天皇を尊ぶ尊王と外国を追い払う攘夷が結びついたのが尊王攘夷です。(2) の採点のめやす：「戦い」「軍事力」の両方を使って書けていれば正解。坂本龍馬の仲立ちで結ばれたのが薩長同盟です。1867年に人々が歌い踊った騒ぎがええじゃないかです。王政復古の号令は、幕府を廃止して天皇中心の政治にもどす宣言です (アは大政奉還、イは異国船打払令、ウは公武合体です)。鳥羽・伏見の戦いから五稜郭の戦いまでが戊辰戦争です。【15・16・17】

7 【1・5・8・14・16・18ページ】

- (1) イ → エ → ア → ウ
(2) 産業革命 (3) 世直し
(4) (例) 開国して貿易が始まると物価が上がって人々の不満が高まり、欧米の力を知った薩摩藩と長州藩が同盟を結んで、幕府をたおす動きを強めたから。
(5) イ

日米和親条約は1854年、桜田門外の変は1860年、薩英戦争は1863年、大政奉還は1867年です【18】。クラゲチャートの足①は、市民革命と産業革命で力をつけた欧米がアジアに進出したこと、足③は、世直しを求めた一揆や打ちこわしです【18】。(4) の採点のめやす：「物価」「同盟」の両方を使って書けていれば正解【14・16・18】。欧米は、市民革命で国民が政治に参加し、産業革命で工業が発達したので、先に発展しました【5・8・18】。